

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:2023年6月1日

事業所名: 運動発達支援Schoolあみあみ片山校

評価項目	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点や改善方法 改善目標又は改善計画	
事業所の運営	1	利用定員が利用時間やスペースとの関係で適切である	100%	0%	十分なスペースを確保している。	より有効なスペースの使い方を検討していく
	2	職員の間は適切な関係性である	100%	0%	適切な職員間の関係性がある。	より専門職との関わりが増えるように、積極的な連携を行う
	3	生活空間は、本人にわかりやすく整備された環境になっている。また、事業の特色に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切に行われている	88%	12%	建物自体がバリアフリー化されている。	手すり等、必要に応じて設備を改善していく
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子どもの活動に合わせた空間となっている	88%	12%	常に清潔さを維持している。	活動にあわせた空間を作っていく
	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している	75%	25%	朝礼時やMTGを定期的に実施している。	定期的に業務改善を進めていく
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を把握するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	75%	25%	事業所開設から1回目の評価実施。	評価表を基に業務改善につなげていく
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の向上及び改善の施策を、事業所のホームページ等で公開している	80%	20%	事業所開設から1回目の評価実施。	ホームページ等での掲載などの公開を予定している。事業所内掲示も検討している
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%	実施を検討している。	実施を検討している
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	定期的に事業所内での研修を行い、外部研修にも積極的に参加している。	研修の質を高めていく
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	75%	25%	アセスメントシートなどのツールを使用して、情報収集・カンファレンスなどを実施して作成している。	より、ニーズに応えるような支援計画を作成していく
児童発達支援計画	11	子どもの発達行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	80%	20%	一部の児童では使用しているが、全体では使用していない。	今後、使用する児童を増やしていく
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」(発達支援(本人支援及び移行支援))、「障害支援」(地域支援)で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%	基本的には、発達支援が多いが家族支援や地域支援などのニーズにも幅広く対応できるように設定を行っている。	質を高めていく
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	チームによる支援を心がけている。	質を高めていく
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	チームによる支援を心がけている。	質を高めていく
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	活動プログラムの変更や子どもや状況に応じてプログラムの変更などを行っている。	質を高めていく
	16	子どもの状態に応じて、個別指導と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%	0%	アセスメントやカンファレンスを通して、その子どもに最適な支援の在り方を考えながら個別支援計画を作成している。	より、状態に応じた個別支援計画が作れるように質を高めていく
	17	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	朝礼・MTGを実施している。	しっかりと時間を確保できるように努めている
	18	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	75%	25%	可能であれば実施しているが、どうしてもできない場合はSNSなどの共有も行っている。	しっかりと時間を確保できるようにしていく
	19	日々の支援に関して記録をとるとともに、記録の検証・改善につなげている	88%	12%	必要な記録がしっかりととるようにしている。	検証・改善についての質を高めていく
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しを必要と判断している	100%	0%	単年に最低1回は、モニタリングを実施して、個別支援計画の見直しを実施している。	見直しの判断は日々実施していく
児童発達支援計画の進捗	21	児童発達支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状態に配慮した質の高い情報が提供されている	75%	25%	関係者だけでなく、必要であれば専門職も参加している。	今後も、どんどん参加していく予定
	22	母子支援や子ども・子育て支援等の関係府や関係機関と連携した支援を行っている	25%	75%	あまり機会はないが、連携できる場所で支援は行っている。	機会を増やしていきたいように検討を行う
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0%	100%	医療的ケア児がいないので未実施。	ニーズがあれば対応していく
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関と連携体制を整えている	0%	100%	医療的ケア児がいないので未実施。	ニーズがあれば対応していく
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	25%	75%	必要時には実施している。	ニーズがあれば対応していく
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小・中学校)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	25%	75%	必要時には実施している。	ニーズがあれば対応していく
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けられている	13%	87%	一部実施しているところがあるが、全体ではない。	ニーズがあれば対応していく
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0%	100%	要請等があれば検討していく。	ニーズがあれば対応していく
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0%	100%	検討していく。	検討していく
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	進捗時やモニタリング時などに、情報伝達を実施しており、個別の相談などにも対応している。	より質を高めていく
保護者の対応	31	保護者の対応の向上を図る観点から、保護者に対して家庭支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	0%	100%	専門職が関わりながら、行う準備はできている。	ニーズがあれば対応していく
	32	運営規程、利用者負担額について丁寧な説明を行っている	100%	0%	分かりやすく、丁寧な口頭で説明を心がけている。	より分かりやすい説明方法などを検討していく
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%	毎回、わかりやすい説明が心がけられている。質問や訂正などにも対応している。	より分かりやすい説明、ニーズに合った支援計画の作成を目指していく
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要に応じて支援を行っている	88%	12%	モニタリング時に応じたり、申し出があった際には専門職が関わり支援を行っている。	より適切な支援を行えるようにブラッシュアップを図っていく
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%	現状、父母の会や保護者会等がなく、別の形で連携を支援できないが構築している。	ニーズがあれば対応していく
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に相談し、相談や申し入れがあった場合には迅速かつ適切に対応している	100%	0%	迅速に対応できるように、支援員・管理職との連携を密にし相談や申し入れに対して対応している。	より、質を高めた支援を行っている
	37	定期的に会議等を開催し、活動経費や行事予定、連絡調整等の情報を子どもや保護者に対して発信している	0%	100%	会議は発行していないが、活動記録や口頭などで保護者に開示している。	ニーズに応じて、対応していく
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	法令に基づいた対応をしている。	法令遵守で今後も実施していく
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	連絡ノートやメッセージのやり取りができるツールを使用している。	より情報伝達ができる方法を模索していく

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を指摘した 改善内容又は改善目標
	取組みの行事に地域住民を招待する等地域に開かれた学級運営を 図っている	0%	100%	リハビリや療育が中心の施設の為、行事を実施すること自体が難しい。	開かれた事業運営ができるように検討していく
	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策 定し、職員や保護者に周知するとともに、親御さまへも周知した訓練を実施し ている	88%	13%	マニュアルを策定し、法令に則った訓練を実施している。	保護者への周知や報告ができていないこともあり、実施していることを知らな かった保護者もおられるので、今後は周知・報告を徹底していく
	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っ ている	100%	0%	研修を行い、訓練を実施している。	訓練の実施頻度を保護者に検定していく
	事前には、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状態を確認して いる	100%	0%	アセスメント時の情報共有は、特に重要視して実施している。	アセスメントの質や情報共有の精度を上げていく
	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がも たれている	0%	100%	食物の提供を一切行っていない為、保護者からの連絡、情報共有は特に重 要視して実施している。	アセスメントの質や情報共有の精度を上げていく
	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	共有されたヒヤリハットについての、意見交換や対応についてのMTGも実施 している。	より多くのヒヤリハット事例の共有を行っていく
	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をし ている	100%	0%	研修やロールプレイなどを実施し、日々研修を高める対応をしている	より研修の質を高めていく
	虐待防止委員会及び身体拘束適正化検討委員会を定期的に開催し、 その結果について保護者に通知徹底している	100%	0%	結果についてはミーティングや研修などで周知徹底を図っている	開催時期や頻度などを今後検討していく
	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、態度的に決 定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発 達支援計画に記載している	88%	12%	入所時の説明や、同意書の作成など説明して了解を得ることができ ているが、計画には記載していない	常に見直ししていく必要がある、記載が必要ならば記載する

○この事業所における自己評価結果(発表)は常務理事会で行った自己評価です。